飯田町長によるこれまでの町政運営の検証と今後の進退について

谷口 和弥（たにぐち かずや）

（無会派）



Q **飯田町長にとって３度目の出馬となった令和５年の統一地方選挙では、幕別町議会議員選挙だけでなく幕別町長選挙も無投票となった。有権者の投票行為によってどんな政策を町長・議会に求めているのかなどの意思を知ることは重要である。町政に対する関心を高めるため、町としてどのような取組を行ってきたのか伺う。**

A 「住んでみたい・住み続けたい・住んでよかった」と思えるまちづくりを目指し、町内会のイベントや各種団体との懇談に参加し、出前講座や「町長への手紙」、アンケートなどで住民の声を幅広く聞き、情報共有を進めてきた。また、広報紙やSNSを活用して施策や制度をわかりやすく発信し、町政への関心を高めてきた。今後も住民の声を丁寧に聞き、住民ニーズの把握や施策への反映を図り、町政への関心向上に努める。

Q **現時点で飯田町長がこれまでの町政運営をどのように検証し、次期においても引き続き町政を担う意思をお持ちなのか所信を伺う。**

A 町民との対話を重ねつつ「原点に立ち返る」「声なき声に耳を傾ける」など４つの基本スタンスを貫き、公約に掲げた四つの分野・37の基本政策に誠心誠意、取り組んできたと考える。地方を取り巻く環境変化に柔軟に対応し、産業振興、子育て・福祉、ゼロカーボンや防災、教育・文化・アイヌ文化施策などを推進し、公約はおおむね達成できたと自己検証している。残りの限られた任期で本年度予定している事業を着実に遂行し、新たな課題にも真摯に向き合い、最後まで課された職責を全うしていきたいと考える。



▼幕別町長選・町議選の立候補者数と定数
（過去５回）

選挙年	町長選挙	町議選挙
2007年(H19)	１人／１人 無投票	23人／20人
2011年(H23)	２人／１人	21人／20人
2015年(H27)	２人／１人	21人／20人
2019年(H31)	２人／１人	21人／19人
2023年(R５)	１人／１人 無投票	19人／19人 無投票

※「立候補者数/定数」で表示。定数と同数の場合は無投票。

学校施設や社会教育施設を活用した子どもの居場所づくりについて

塚本 逸彦（つかもと いつひこ）

（政清会）



Q **文部科学省の要請を受け、人員確保、予算、安全管理の責任所在といった課題の認識は。学校における働き方改革を後退させないために、「学校の役割」と「運営の主体」を明確に切り離す必要があると考えるが町の見解は。**

A 既存の学び隊や交流事業、社会教育施設の各種講座により、多様な学びや体験機会は一定程度確保できていると認識しているが、猛暑への対応や人員確保が課題である。今回の要請は社会教育の一環として地域の多様な担い手と連携して実施することを想定しており、学校が主体となるものではない。運営の主体は教育委員会などであり、学校施設を使う場合でも教職員が対応するものではないため、教職員の働き方改革には直接関係しないと考える。

Q **町内の各地域において、長期休業期間中の「居場所」を必要としている児童や保護者が望む支援内容について、現時点でどのような要望があるのか。**

A 町内の各地域における長期休業中の居場所に関して、児童や保護者から支援を求める要望は、これまでのところ寄せられていない。

Q **本町の実情に合った居場所づくりの仕組みをどのように構築していくのか。**

A 現在、学童保育所や児童館の開放事業をはじめ、既存の社会教育施設で多様な体験・学習の場を提供している。さらに、町内で開設されているこども食堂など民間・地域ボランティアの活動も居場所として位置付けている。今後も、ニーズの把握に努め、町として担うべき役割を見極めていく。



▲「子どもの居場所」のイメージ